

武内清・敬愛大学特任教授らの研究グループがデジタル教科書に関する教員と児童・生徒アンケートを行った。指導者用デジタル教科書の評価は高いが、学習者用については紙の教科書との併用を求める声が多かった。

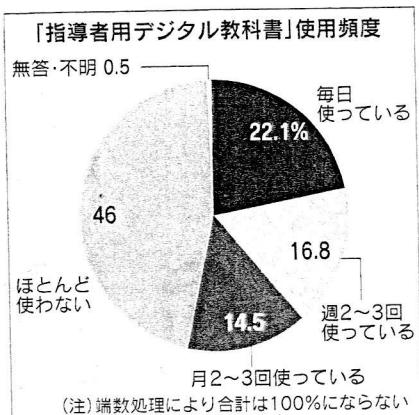
武内 清

敬愛大学特任教授



「デジタル教科書」現場は

紙と併用望む教員8割



かし、いずれ遅れた部分は、進んだ部分に影響され変化する。遅かれ早かれ、学校が情報化の流れに乗るのは必然である。電子黒板が使われ、紙の教科書はデジタル教科書に変わり、教育方法も様変わりする。教員がチョークと黒板を使い、それを子供たちがノートに筆記する一斉授業ではなく、電子黒板やタブレットによる授業が進む。

しかし、これは果たしてスムーズに実現するのでしょうか。どのようないい教育現場には教育実践の慣習や文化の伝統があり、それは先人の教育既存の教育実践や学校文化化と対峙し、検証されて融合が図られる。教育現場には教育実践に関する新しい教育方法はある。新しい教育方法は、導入に関しては、教員も調査によると、指導者用デジタル教科書（電子黒板等）の教育現場への導入に反対する声はほとんどない。普通教室の83%がインターネットに接続されており、指導者用デジタル教科書は児童・生徒も反対する声はない。「準備などに新しい情報を入手して使える」（80%）と高く評価している。

中には、「準備などに時間かかりすぎる」「実際に使う教員が少ない」といった評価もあるが、概して負の評価は少ない。

電子黒板 生徒にも好評 双方の効用検証を

一方児童・生徒たちの評価をみると、「音や映像で理解しやすくなる」（68%）、「授業に集中できる」（56%）と好評である。

このように、指導者用デジタル教科書は、教育現場にスムーズに導入される、「これまでの教育実践や学校文化とも摩擦を起こさず、教員の教える補助教材として使え、子供の興味を喚起する方法として歓迎されている。

問題は、紙の教科書に代わる「学習者用のデジ

タル教科書（タブレット）」である。教員は、機器のトラブルも頻繁に発生する。学校内のデジタル教科書（タブレット）は、環境の整備と教員への研修が必要である。

ただし、紙媒体の教科書の廃止を考えている教員は3%とすくない。肯定的に評価するものが多い。

「学力が向上する」（79%）、「環境の整備と教員への研修が必要である。

一方児童・生徒は4人に1人。使用経験は未使用者の子供に比べ、「勉強への興味が増す」「音や映像を体験できる」といった肯定的評価が若干高くなるが、同時に「自分が性も育ってきた。デジタル教科書のみの授業で悪くなる」「紙の教科書の授業での併用がよい」と感じている割合も高い。

こうした現状を踏まえ、デジタル教科書の導入に関しては経済の未来を考える際の論点となるのであるが、その導入では想定外の混乱も起ころう。円滑な実施に向け幅広な検証が求められる。

（横）

ポイント

20年採用に向け
円滑な整備を

文部科学省の検討会議は6月、2020年の次期学習指導要領実施に合わせてデジタル教科書を導入し、紙の教科書を基本に、学習内容に応じてデジタル教科書を使うとする中間まとめを出した。武内氏らの調査で教育現場で紙とデジタルの併用派が多数だったことは、こうした考え方方が支持されたものといえる。ただ、デジタル化は時代の流れとはいえ、学校への導入では想定外の混乱も起ころう。円滑な実施に向け幅広な検証が求められる。